

新富町の新たな力に!

第8回

地域おこし協力隊通信

私の編集経験で、
広報しんとみをよりよく!



昨年9月より地域おこし協力隊となり、現在は総務課に属され、この「広報しんとみ」の制作などを担当している二川智南美さん。前々号でも夫婦揃って誌面に登場したので彼女の顔に見覚えのある方もいらっしゃるのでは。

出身は群馬ですが、「田舎で育ったので、新富町もしっかりくる」と言って、この町での暮らしにとっても満足している様子の二川さん。移住前は、東京で暮らしながら編集プロダクションで雑誌や書籍類の制作に携わっていました。

編集プロダクションというのは、出版社などから書物の編集実務の仕事を委託される会社です。そのため、決められたテーマに沿って取材や執筆を行い、書物を完璧に仕上げていくことに関してはプロ中のプロ。そこでの経験を活かし、「広報しんとみ」でも、取材先の選定、訪問の約束取り、取材、執筆と一



二川さんが部署の皆さんと手がけた「広報しんとみ」のリニューアル。刷新後、初となる4月号が先日無事に発行されました。誌面デザインを担当したのは、同じく協力隊として活動する増田悠太郎さん。紙面構成やデザイン、読み物の企画など、すべてをガラッと刷新しました。町民の皆さんの反応がとても気になるようです。ぜひ、ご感想は役場まで!

連の業務を幅広く担当しています。

優れた書物の第一条件は「正しい情報を伝える」ことです。誤字脱字はもちろん、事実に誤りがないか、読む人によって解釈が異なる表現にならないかなど、文章を起こす上で気をつけなければならぬ点はたくさんあります。そうした緻密な仕事は、周囲への細かい気配りが上手な二川さんの得意なところ。広報誌には、彼女が持つ技術が随所に生かされています。

今後も引き続き、よりよい誌面づくりを目指し、町民の皆さんからの感想に耳を傾けながら、どんどん改良していきたいと意気込んでいます。約4700世帯へ配布される広報誌をきっかけに、「今まで気づかなかった町の魅力に出会ったり、町内の人の活躍に刺激をもらったり、何か一歩踏み出すきっかけになれば」と語る二川さん。自分が感じた新富町の美しさや面白さを、広報誌を通じて伝えていきたいそうです。

二川智南美(ふたがわ・ちなみ)

1991年、群馬県生まれ。東京で歴史系の雑誌・書籍を制作する編集プロダクションに勤めていたが、2018年に参加した移住促進イベント「南九州移住ドラフト会議」で新富町を知り、移住を決意。パートナーを引き連れ、昨年9月から地域おこし協力隊に。大学で俳句を専攻していたことから、全て五七五にしたがる俳句好き女子。総務課に属し、広報しんとみの制作を担当中。